



2024年8月期通期 決算説明資料

2024年10月15日



- ▶ 1. 2024年8月期通期 決算概要
- 2. 当期計画と株主還元
- 3. 中期成長ビジョン
- 4. Appendix

エグゼクティブサマリー

- デジタルインテグレーションの伸長により、前期比で売上高+6.5%、営業利益+16.9%の成長
- 2025年8月期は売上高24,500百万円（前期比+10.3%）、営業利益2,550百万円（前期比+12.1%）を計画

	売上高	営業損益	
2024年8月期 連結業績	22,221百万円 (前期比+6.5%)	2,273百万円 (前期比+16.9%)	▶ DX領域を中心に売上高、営業利益は成長
デジタル インテグレーション	21,342百万円 (前期比+7.1%)	2,320百万円 (前期比+21.2%)	▶ <ul style="list-style-type: none"> • SI領域は単価アップや大規模案件の獲得に注力し堅調に推移 • DX領域はSalesforceやCOMPANYの運用・定着支援が好調
みどりクラウド	238百万円 (前期比▲35.9%)	▲109百万円 (前期比-%)	▶ <ul style="list-style-type: none"> • 先行投資としてJAに対する「みどりクラウドらくらく出荷」の導入に注力 • 複数JAでトライアル導入開始
機械設計 エンジニアリング	745百万円 (前期比+19.5%)	44百万円 (前期比▲15.9%)	▶ <ul style="list-style-type: none"> • 受注案件数、単価アップともに堅調に推移
調整額	▲104百万円	17百万円	
2025年8月期 計画	24,500百万円	2,550百万円	▶ 売上高は+10.3%、営業利益は+12.1%成長を目指す

2024年8月期 連結業績

- 案件単価の上昇やエンジニアの高稼働率維持により、売上高は前期比で増収
- 自社採用の抑制と積極的なビジネスパートナーの活用によって、採用・教育費、エンジニア待機コストが減少し、営業利益は前期比で増益

	2023年8月期 実績	2024年8月期 実績	前期比		2024年8月期 計画	計画比	
			額	率(%)		額	率(%)
(単位：百万円)							
売上高	20,858	22,221	+1,362	+6.5	22,000	+221	+1.0
売上原価	15,680	16,521	+841	+5.4	—	—	—
売上総利益	5,178	5,700	+521	+10.1	—	—	—
販売費及び 一般管理費	3,233	3,426	+192	+5.9	—	—	—
営業利益	1,944	2,273	+328	+16.9	2,240	+33	+1.5
経常利益	2,156	2,317	+161	+7.5	2,240	+77	+3.5
親会社に帰属する 当期純利益	1,472	1,575	+103	+7.0	1,500	+75	+5.0

2024年8月期 連結業績（セグメント別）

- DX（デジタルトランスフォーメーション）を中心に事業規模は拡大
- 将来の成長に向けたみどりクラウド、NewtonXへの先行投資をしつつも、営業利益は前期比で増益

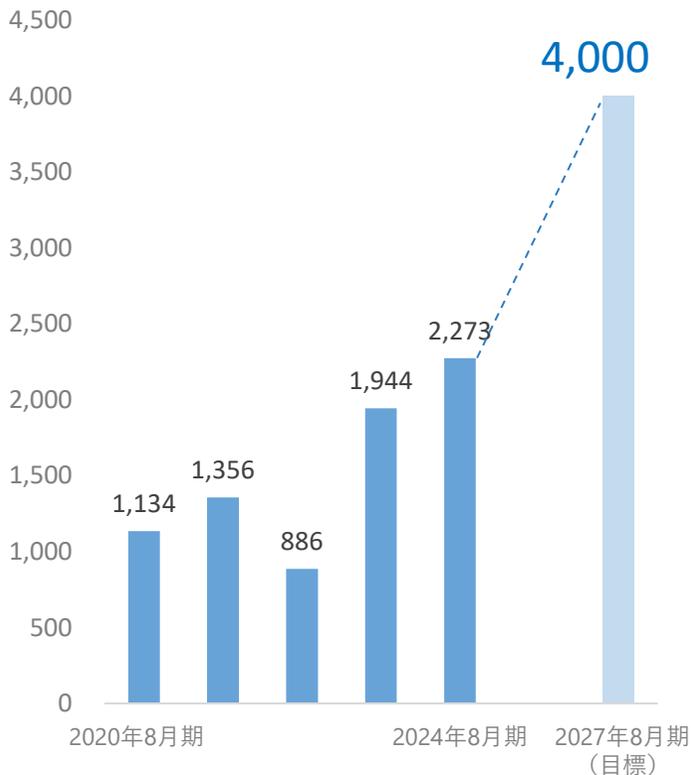
		2023年8月期 実績	2024年8月期 実績	前期比	
				額	率(%)
(単位：百万円)					
売上高	合計	20,858	22,221	+1,362	+6.5
	デジタルインテグレーション	19,920	21,342	+1,422	+7.1
	SI（システムインテグレーション）	14,400	14,785	+385	+2.7
	DX（デジタルトランスフォーメーション）	5,520	6,557	+1,037	+18.8
	みどりクラウド	371	238	▲133	▲35.9
	機械設計エンジニアリング	623	745	+121	+19.5
	調整額	▲56	▲104	▲47	—
セグメント損益 (営業利益率)	合計	1,944 (9.3%)	2,273 (10.2%)	+328 (+0.9%)	+16.9
	デジタルインテグレーション	1,913 (9.6%)	2,320 (10.9%)	+406 (+1.3%)	+21.2
	みどりクラウド	▲31 (-%)	▲109 (-%)	▲77 (-%)	—
	機械設計エンジニアリング	53 (8.6%)	44 (6.0%)	▲8 (▲2.6%)	▲15.9
	調整額	9 (-%)	17 (-%)	+8 (-%)	—

成長戦略の進捗状況

- 2024年8月期から営業利益の増益に注力
- みどりクラウド、NewtonXについても先行投資を行い、営業活動が進捗

中期成長ビジョン（営業利益）

（単位：百万円）



* パートナー企業数はセラクパートナープラットフォームの登録社数を記載

実現に向けた取組み

2024年8月期 4Q

取組内容

IT人材
プラットフォーム

パートナー企業数
1,023社
(前期比+835社)

- ビジネスパートナー活用を通じた採用・教育費の抑制を目的に、パートナー企業の確保に注力
- 好条件の案件供給やエンジニア向け研修の実施等により、パートナー企業と良好な関係を構築

DXシフト

DX領域
売上構成割合
30.6%
(前期比+1.9%)

- 市場の急拡大が見込まれる高利益率のクラウドシステム運用・定着事業の規模拡大に注力
- 多様な顧客ニーズに対応するためのハイスキル人材の育成や、案件獲得に向けた営業活動を積極化

準委任・請負
案件推進

準委任・請負案件
受注額構成割合
46.6%
(前期比+3.6%)

- 高単価の準委任・請負案件の獲得に注力
- 積極的な営業活動と、大規模案件獲得に向けたプロジェクトマネージャーの育成を社内実施

アジェンダ

1. 2024年8月期通期 決算概要
- ▶ 2. **当期計画と株主還元**
3. 中期成長ビジョン
4. Appendix

2025年8月期 連結業績計画

■ 2025年8月期は、前期比で売上高10.3%、営業利益12.1%の成長を計画

(単位：百万円)

2025年8月期計画

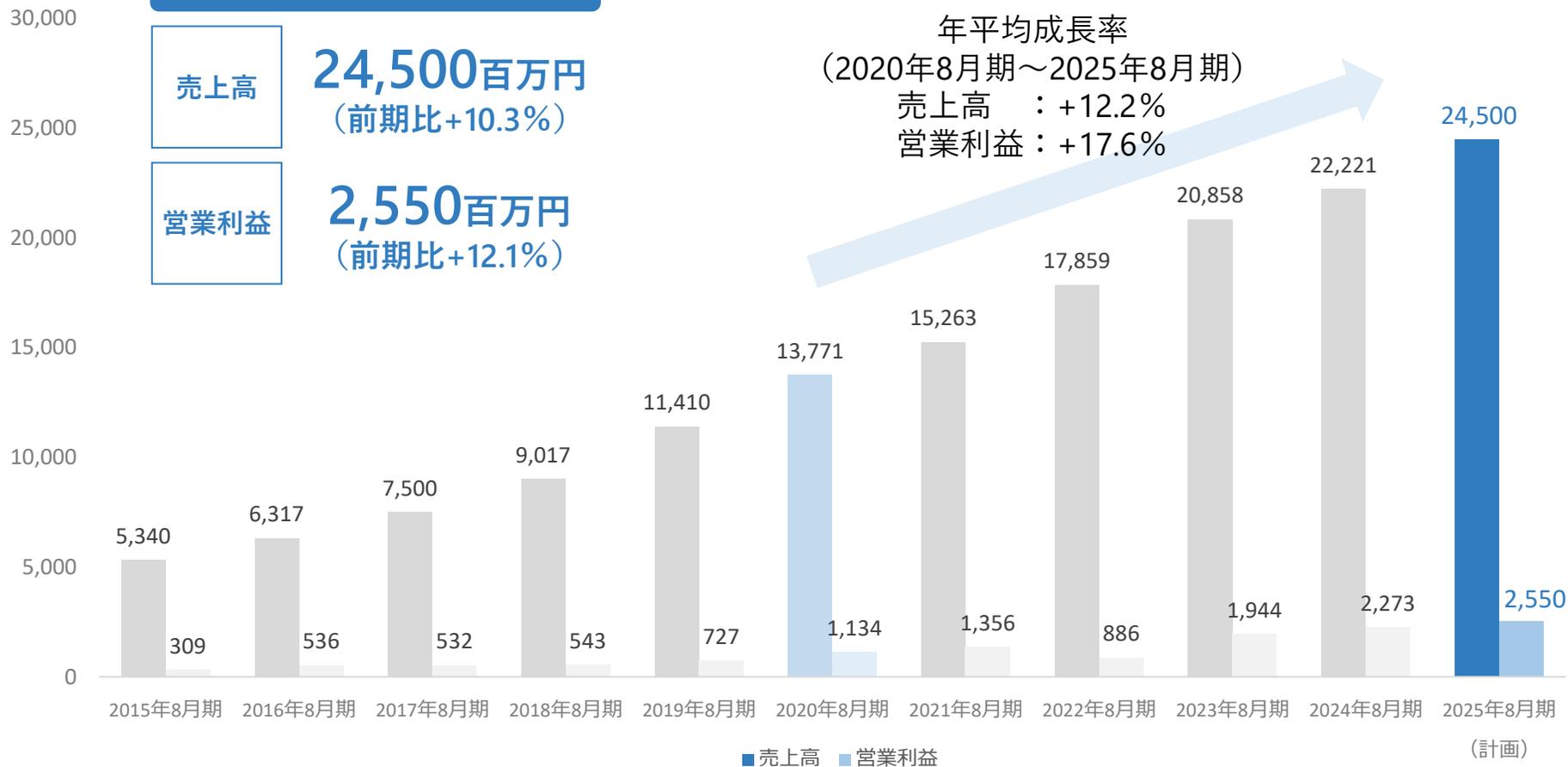
売上高

24,500百万円
(前期比+10.3%)

営業利益

2,550百万円
(前期比+12.1%)

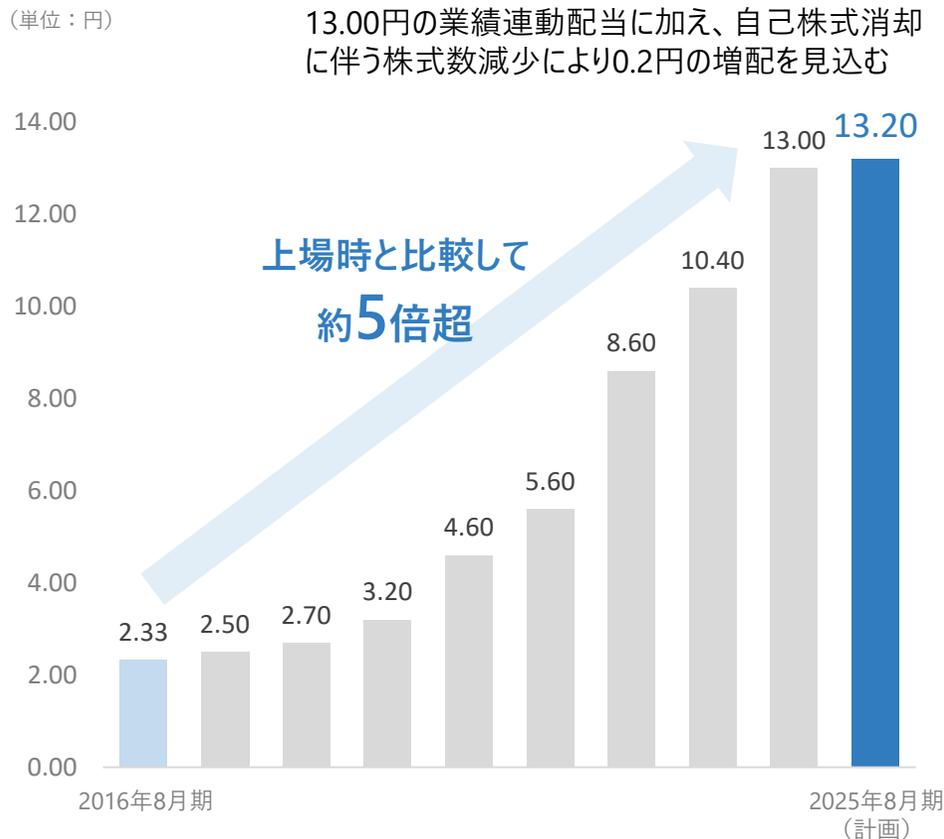
年平均成長率
(2020年8月期～2025年8月期)
売上高 : +12.2%
営業利益 : +17.6%



配当金および投資家との対話状況

- 2025年8月期の一株あたり配当金は業績連動配当に加えて、自己株式消却に伴い増配を予定
- 引き続き自己株式取得による株主還元や、個人投資家との対話機会の充実に取り組む

一株あたり配当金の推移



2024年8月期における投資家との対話状況

機関投資家	<ul style="list-style-type: none"> • 決算説明会 (通期決算) • IRミーティング (四半期決算)
個人投資家	<ul style="list-style-type: none"> • 個人投資家向けIRセミナー (年3回実施) <p>個人投資家との対話機会を充実させるため、IRセミナーの開催数を増加させる方針</p>
主な対話内容	<ul style="list-style-type: none"> • 事業内容 (競争優位性、ビジネスモデル) • 成長戦略 (成長ビジョン、M & A、投資進捗) • 資本政策 (株主還元)

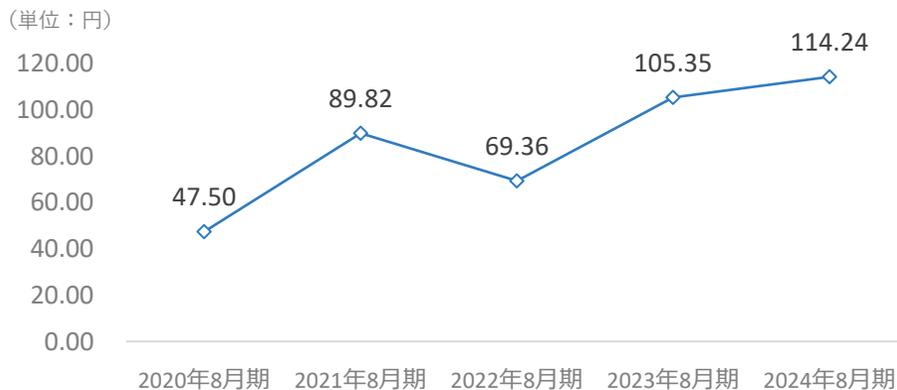
* 2017年3月1日付で普通株式1株につき4株の株式分割を行っており、1株あたり配当額については当該株式分割調整後の数値を記載

自己株式取得・消却の状況

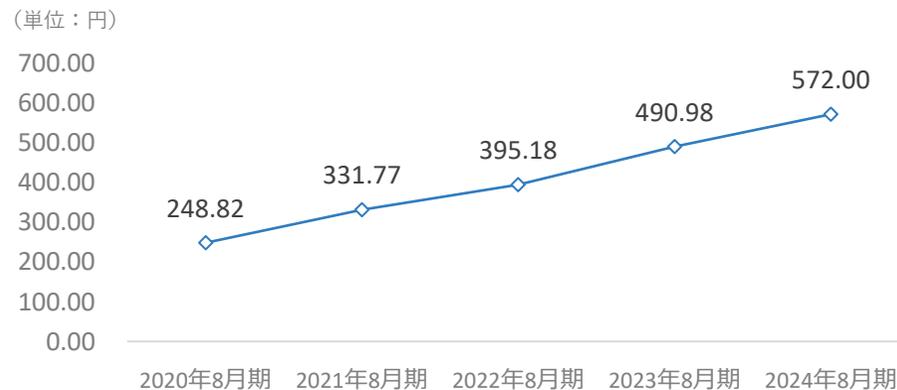
- 2024年8月期は自己株式取得、及び消却に伴い、一株あたり当期純利益、一株あたり純資産が伸長
- 2025年8月期においても自己株式取得を実施し、継続的な株主還元 に注力

	目的	期間	株数	総額	進捗
取得	<ul style="list-style-type: none"> 株主への利益還元 機動的な資本政策の遂行 M&Aにおける活用 インセンティブ・プランでの活用 	実績 2023年11月16日 ～2024年6月26日	330,100株	399,971,100円	完了
		計画 2024年8月9日 ～2025年7月31日	400,000株 (上限)	400,000,000円 (上限)	実施中
消却	—	2024年8月20日	165,000株	—	完了

一株あたり当期純利益の推移



一株あたり純資産の推移



アジェンダ

1. 2024年8月期通期 決算概要
2. 当期計画と株主還元
- ▶ 3. **中期成長ビジョン**
4. Appendix

市場に対する当社のアプローチ

- IT技術の活用を軸に、社会課題の解決に貢献する事業を展開
- 成長可能性が高い領域にいち早く参入し、独自のポジショニングを確立

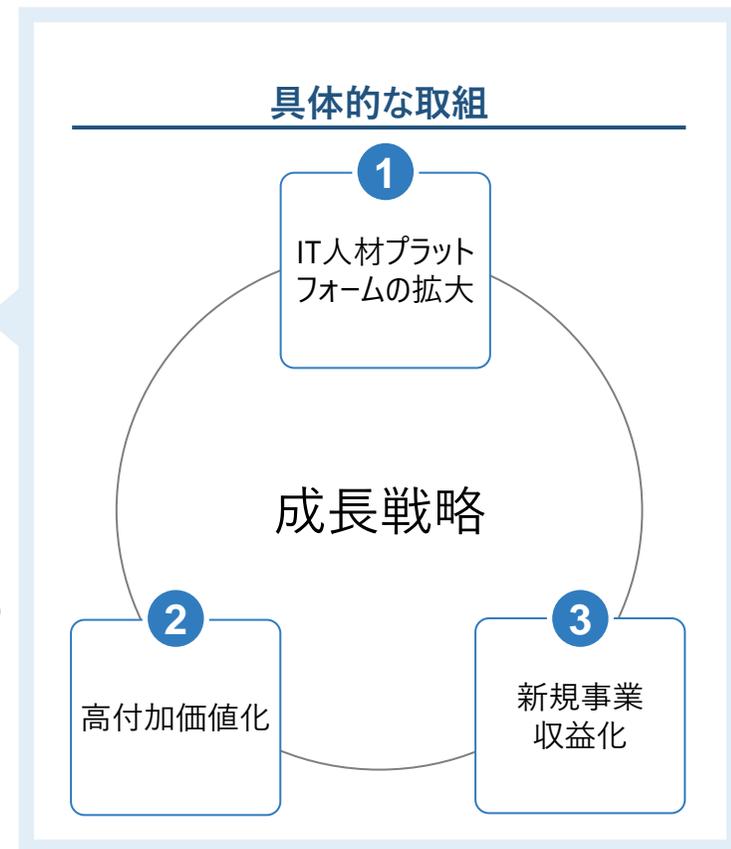
市場		
社会課題	概要	最大市場規模
IT人材不足	<ul style="list-style-type: none"> 2030年に国内で最大約80万人のIT人材が不足 新卒のIT人材供給は年間最大6.4万人に留まる 	<p>1.2兆円</p> <small>矢野経済研究所デジタル人材関連サービス市場規模予測による</small>
ITシステムのクラウド移行	<ul style="list-style-type: none"> 企業ITシステムのクラウド化が進行 全世界で年25%の市場成長 	<p>16兆円</p> <small>IDC JAPAN国内クラウド市場予測による</small>
農業の生産性向上	<ul style="list-style-type: none"> 農業人口は減少の一途 非効率な作業も多く、生産性向上が課題 	<p>35兆円</p> <small>農林水産省「農林水産業ひとロメモ」による食料関連流通市場規模を示す</small>
生成AIのビジネス活用	<ul style="list-style-type: none"> AI活用による生産性向上や業務のAI化が進行 年平均50%以上の市場規模拡大が継続 	<p>1.7兆円</p> <small>電子情報技術産業協会国内生成AI市場予測による</small>

当社		
ソリューション	特徴	売上高
SI領域	<ul style="list-style-type: none"> IT人材を自社で創出し、長期的な活躍を実現する仕組みを確立 上流～下流まで幅広い案件に対応可能 	147億円
DX領域	<ul style="list-style-type: none"> カスタマーサクセス分野への早期参入によるノウハウの蓄積 Salesforce社やWHI社からの認定、大手SIer企業との協業 	65億円
みどりクラウド	<ul style="list-style-type: none"> 環境モニタリング、自動制御によって農作業の生産性向上 集出荷業務をQRコードの活用によって省力化 	2.3億円
NewtonX	<ul style="list-style-type: none"> 社内で蓄積したカスタマーサクセスに関するノウハウ 情報漏洩防止や再学習防止などの高いセキュリティ性 	—

中期成長ビジョン

- 営業利益、時価総額、売上高の目標値を設定
- 当面は営業利益の増益を優先課題として取り組みを進行

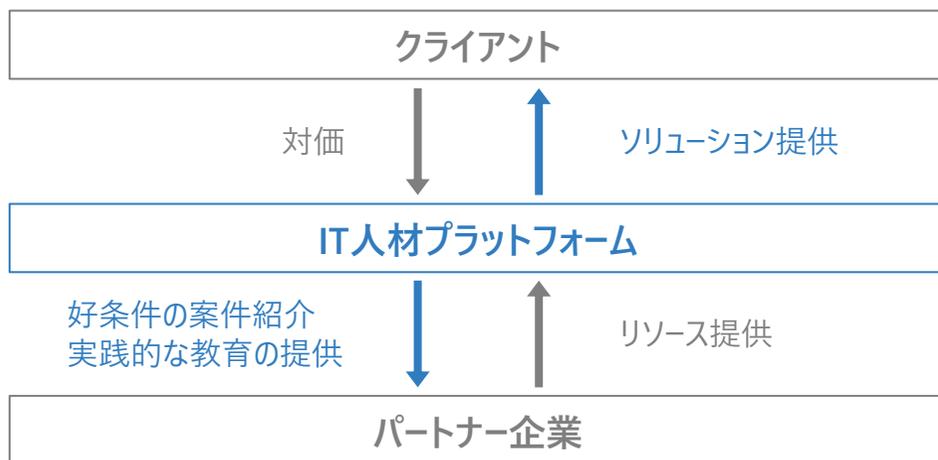
	策定時 2023年8月期	進捗状況 2024年8月期	中期成長ビジョン 目標
営業利益 (営業利益率)	19億円 (9.3%)	▶ 22億円 (10.2%)	▶ 2027年8月期 40億円 (15.0%)
時価総額	183億円	▶ 195億円	▶ 2026年8月期～ 500億円 (想定PER：15～30倍)
売上高	208億円	▶ 222億円	▶ 500億円



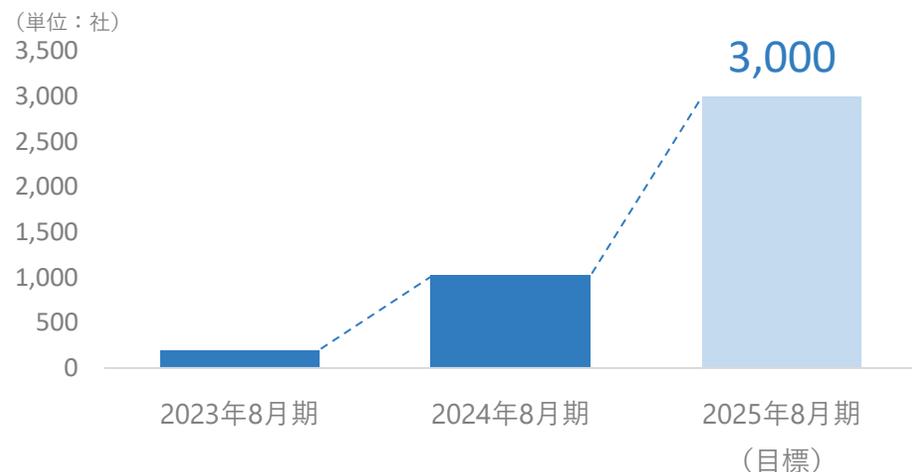
成長戦略① IT人材プラットフォームの拡大

- プラットフォーム拡大に向けて、パートナー企業数を当面の重要指標として設定
- パートナー企業に所属するエンジニアの稼働数を増加させ、将来の成長に向けた基盤拡大に注力

概要



パートナー企業数の推移



IT人材プラットフォームを活用する当社のメリット

- 自社エンジニアのリソースだけでは対応しきれない案件も外部リソースを活用することで受注することが可能
- 自社エンジニアを採用する場合と異なり、採用費や未経験者の教育コストが不要のため、販管費の抑制に貢献

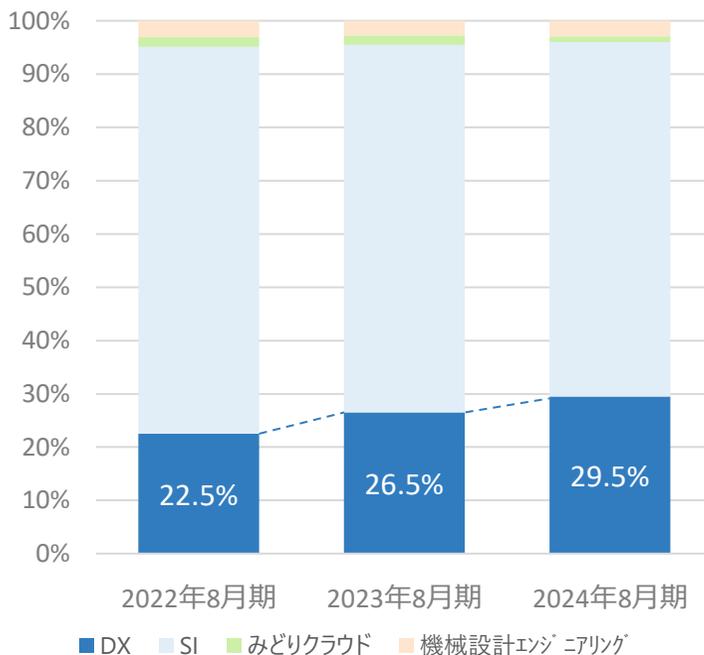
成長戦略② 高付加価値化

- DXシフト、準委任・請負案件の推進により、収益性の高い案件獲得に注力
- 両施策ともに順調に進捗しており、引き続き高付加価値化を推進

DXシフト

成長市場・高利益率のクラウドシステム運用・定着の事業拡大に注力し、全社の収益性向上を図る

セグメント別売上高



準委任・請負案件の推進

高単価の準委任・請負案件の獲得に注力する

契約形態別受注額



概要

構成割合

成長戦略③ 新規事業収益化

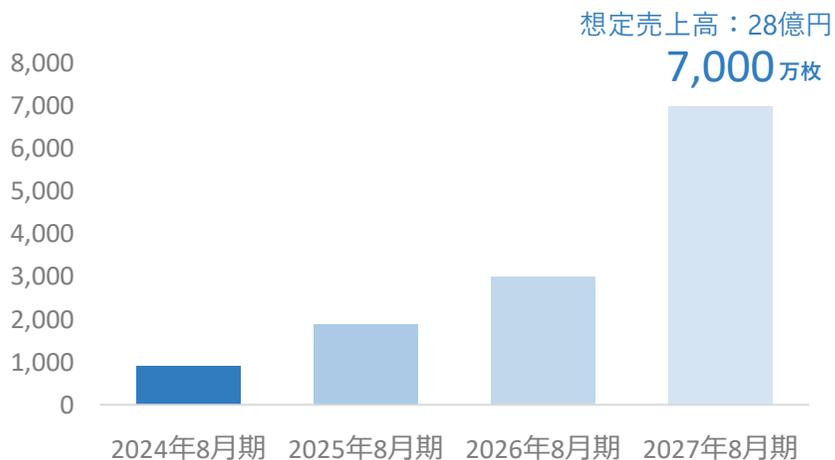
- 両事業ともに利益率の高いビジネスモデル
- 現在は投資フェーズのため、営業活動に注力することで早期の利益貢献を目指す

みどりクラウド らくらく出荷

集出荷における計数・伝票作成と記入作業をラベルの貼り付けと読取によってデジタル化し省力化するシステム

初期導入費用+（流通ラベル数×単価（～40円））

JAへの導入に注力し、流通ラベル数の増加を図る

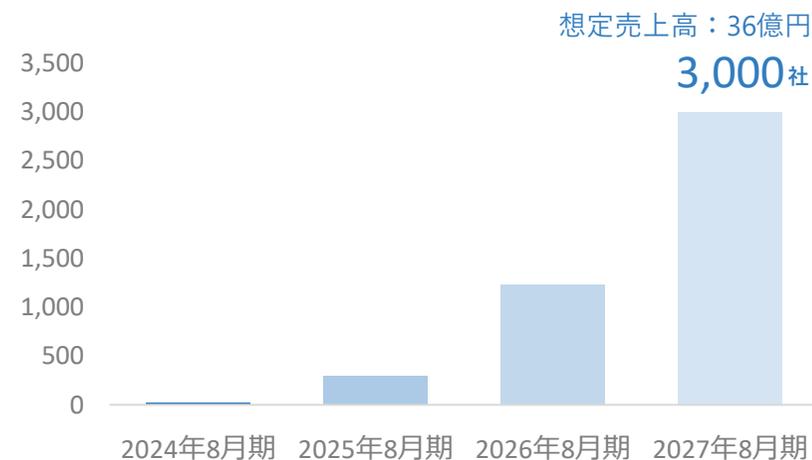


NewtonX

安心安全にChatGPTを利用するための法人向けシステム

月額利用料

AIの自社導入が難しい中堅企業をターゲットに、伴走型支援を差別化要素として導入社数の増加を図る



サービス概要

収益モデル

短～中期
成長シナリオ

アジェンダ

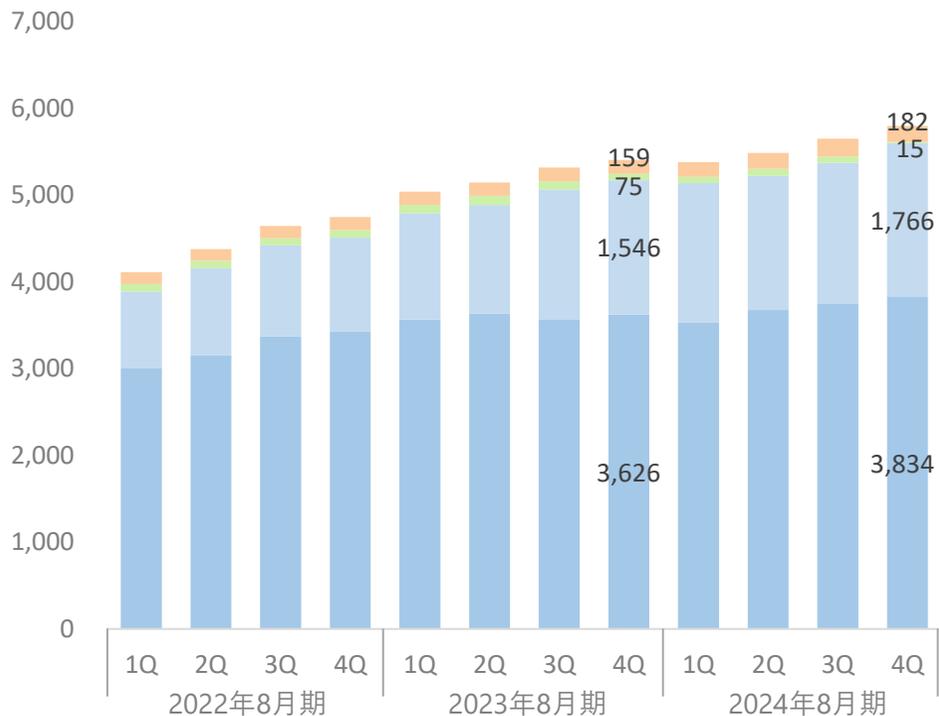
1. 2024年8月期通期 決算概要
2. 当期計画と株主還元
3. 中期成長ビジョン
- ▶ 4. Appendix

四半期連結業績推移

- DX領域が全社の成長を牽引し、売上高は順調に拡大
- 利益率の高いDX領域の伸長、及び販管費抑制により各利益率は上昇

ソリューション別売上高

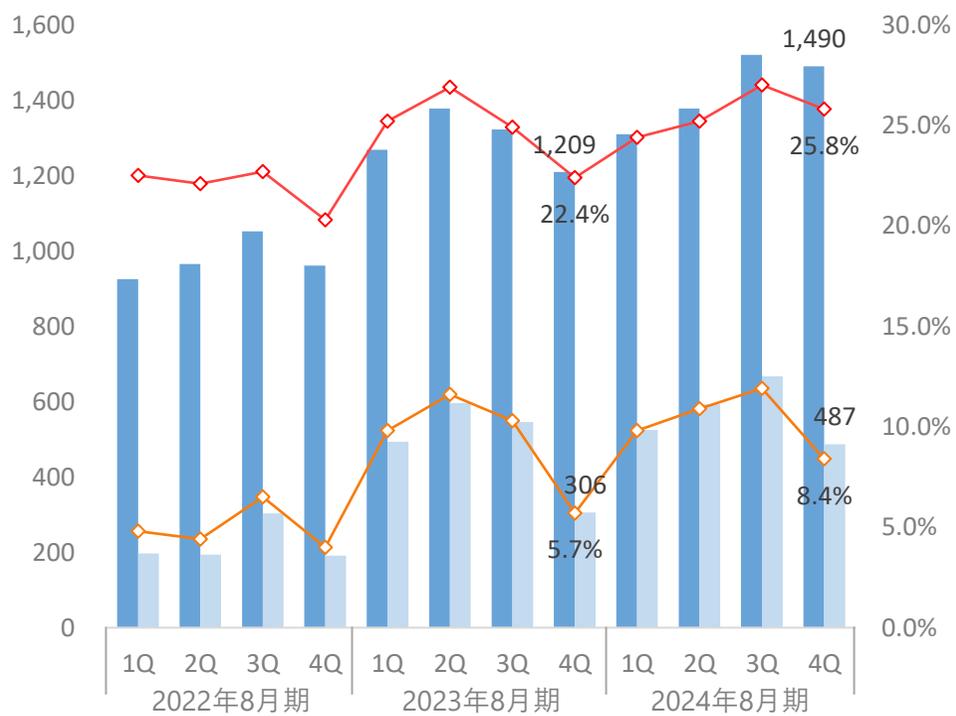
(単位：百万円)



■ SI ■ DX ■ みどりクラウド ■ 機械設計エンジニアリング

売上総利益・営業利益（率）

(単位：百万円)



■ 売上総利益 ■ 営業利益 ◆ 売上総利益率 ◆ 営業利益率

*デジタルインテグレーションセグメントはSI（システムインテグレーション）とDX（デジタルトランスフォーメーション）によって構成

平均顧客単価（受注額）の推移

- 既存顧客との取引拡大や、提供役務の付加価値向上を背景に高単価案件が増加したことから、平均顧客単価（受注額）は上昇
- 新規顧客の受注額引き上げに注力し、全体の顧客単価上昇を図る

（単位：千円）

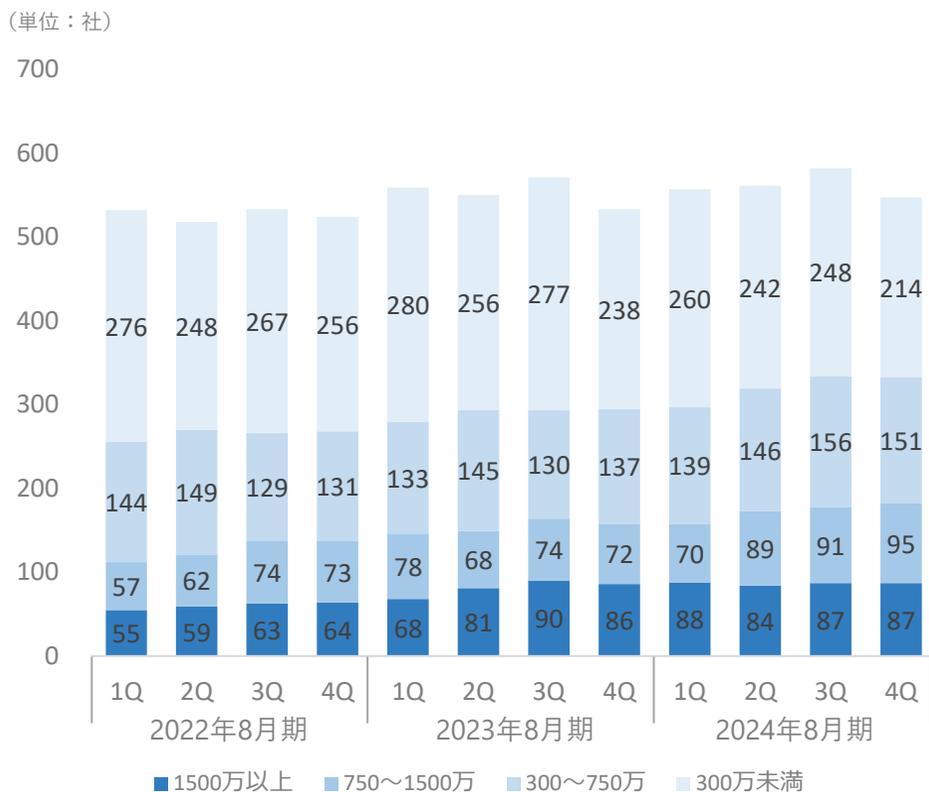


*平均顧客単価は自社プロダクトの受注額を除く *直近1年間で取引があった顧客を既存顧客として算出

受注顧客数の推移

- 採算性の高い案件にリソースを集中したことで前四半期比で全体の顧客数は減少したものの、受注額の大きい顧客数は増加

全体



前四半期からの顧客数推移

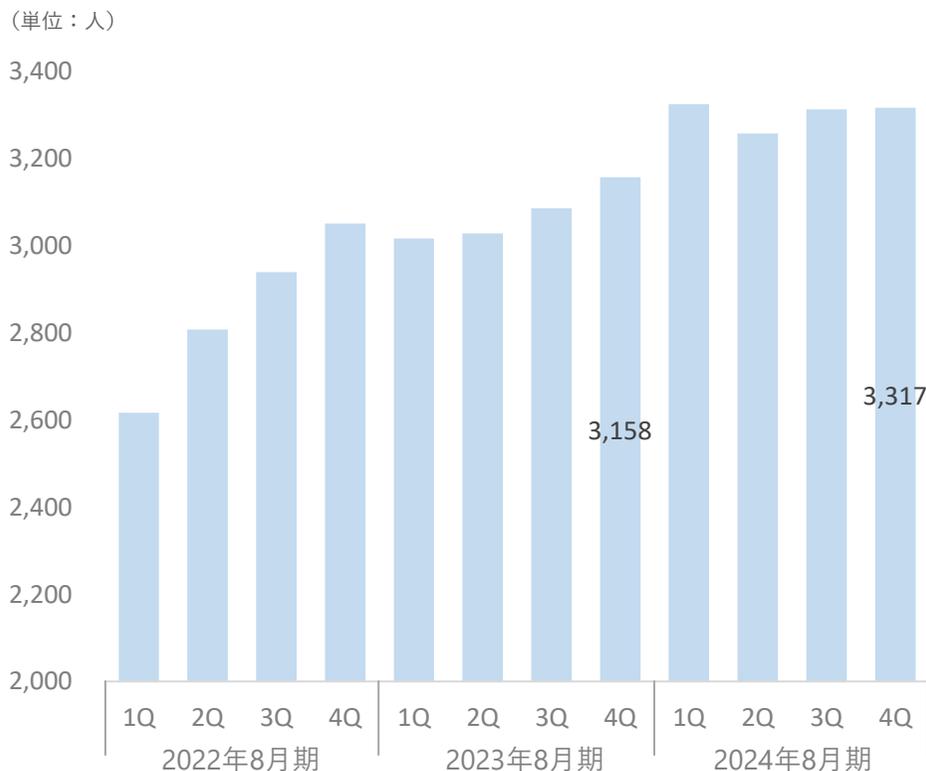
		2024年8月期 3Q	2024年8月期 4Q	差異
合計		582	547	▲35
3Q 顧客	300万未満	248	178	▲70
	300~750万	156	146	▲10
	750~1500万	91	93	+2
	1500万以上	87	87	-
4Q新規顧客		-	43	+43

*金額内訳は受注額で区分

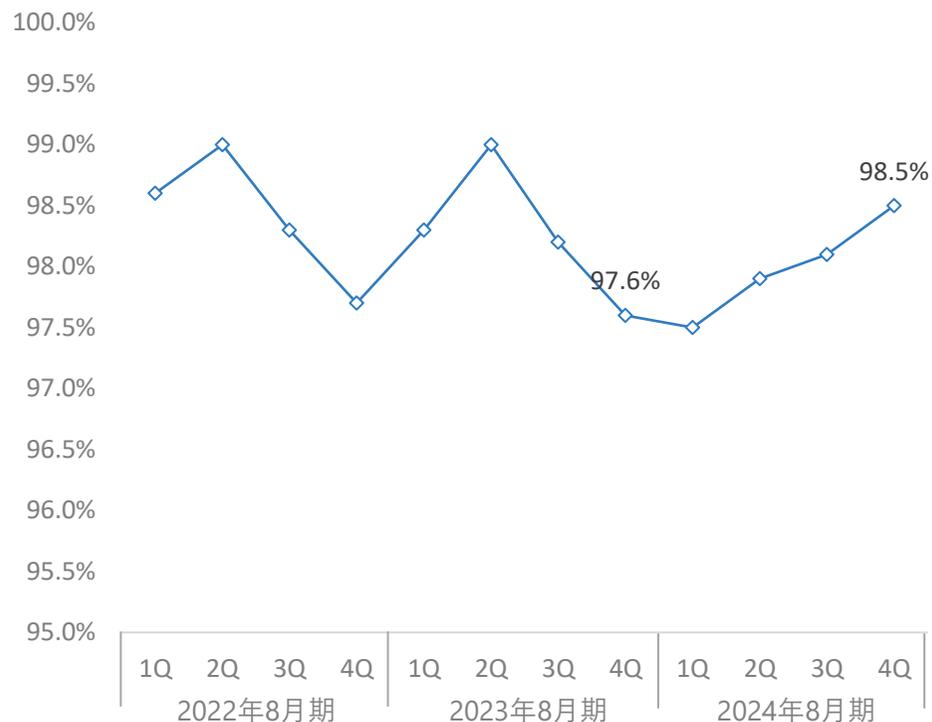
エンジニア数・稼働率推移

- ビジネスパートナーの活用を推進したことでエンジニア数は前期比で増加
- 案件切り替えのタイミングで多少の上下はあるものの、稼働率は安定して高い水準で推移

エンジニア数



稼働率



* 2024年8月期以降のエンジニア数は自社エンジニアと稼働パートナーエンジニアを合算した数値

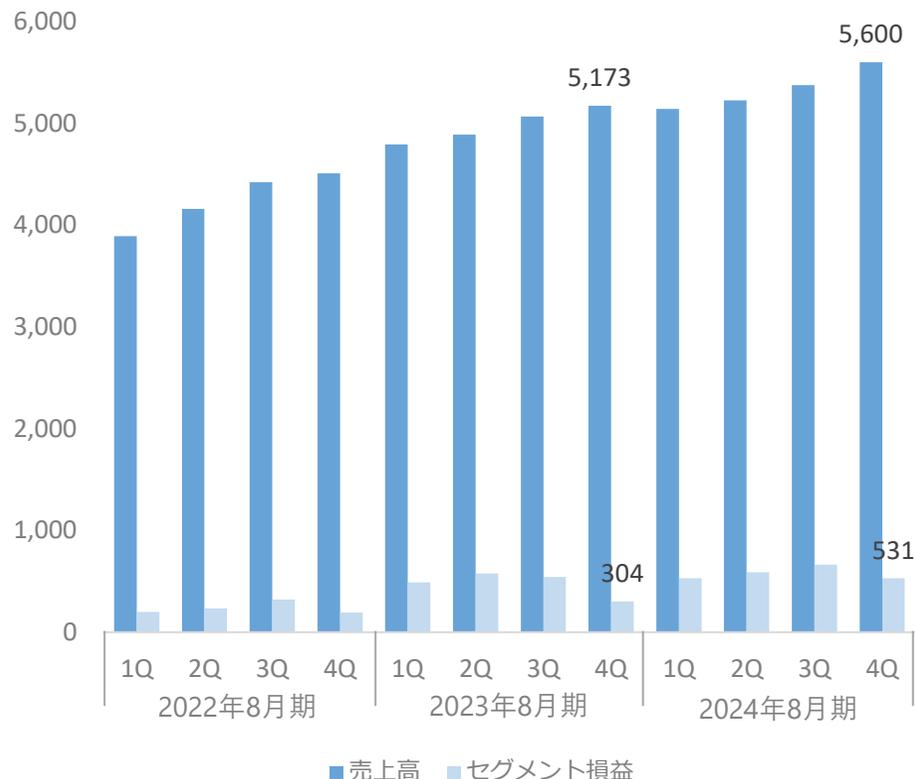
* 稼働率算出の対象は初期研修期間を除く自社エンジニア

デジタルインテグレーションセグメント

- 高単価案件の獲得や、利益率の高いDX領域の伸長により、売上高、営業利益は増収増益

業績推移

(単位：百万円)



通期売上高
21,342百万円
(前期比+7.1%)

通期セグメント損益
2,320百万円
(前期比+21.2%)

セグメント利益率
10.9%
(前期比+1.3%)

決算概要

- 高単価案件の獲得や、DX領域におけるSalesforce、COMPANYの導入・定着・運用支援が好調であったことから、売上高は増収となった。
- 利益率の高いDX領域が好調だったことに加え、ビジネスパートナー活用を通じた教育・採用費の抑制により、営業利益は増益となった。

トピックス

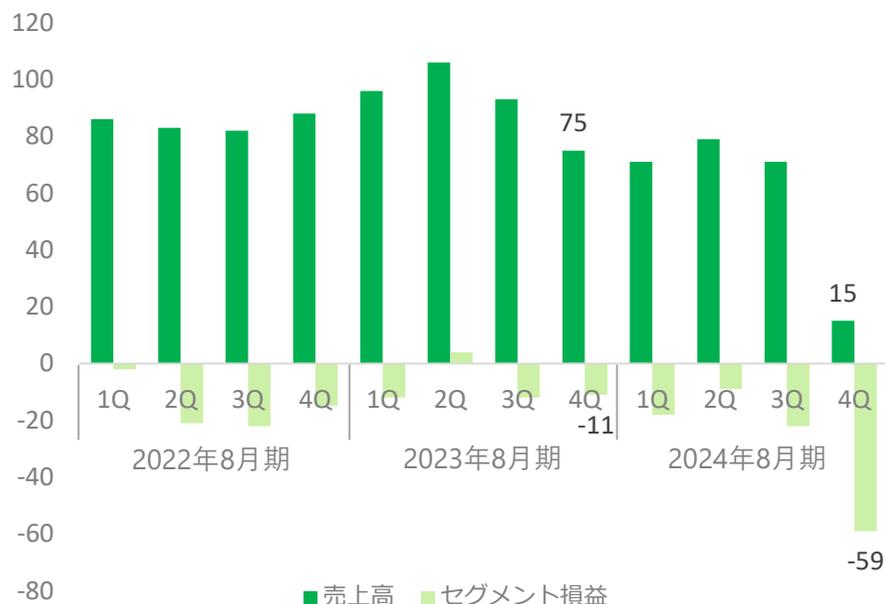
- 「intra-mart」の開発領域に強みを持つマインド社の全株式を譲り受け
- NTTデータ イントラマート社とディベロップメントパートナー契約を締結

みどりクラウドセグメント

- 「みどりクラウドらくらく出荷」の拡販にリソースを集中し、複数JAで導入準備は進行中
- 2024年8月期は投資が先行し、売上高は減収、営業利益は赤字幅が拡大

業績推移

(単位：百万円)



通期売上高
238百万円
(前期比▲35.9%)

通期セグメント損益
▲109百万円
(前期比－%)

セグメント利益率
－%
(前期比－%)

決算概要

- ・ 集出荷DX化サービス「みどりクラウドらくらく出荷」の拡販に注力したものの、業績貢献は来期以降であることから、売上高は前期比で減収となった。
- ・ 先行投資として「みどりクラウドらくらく出荷」の拡販に注力したことから販管費が増加し、営業利益は前期比で赤字幅拡大となった。

トピックス

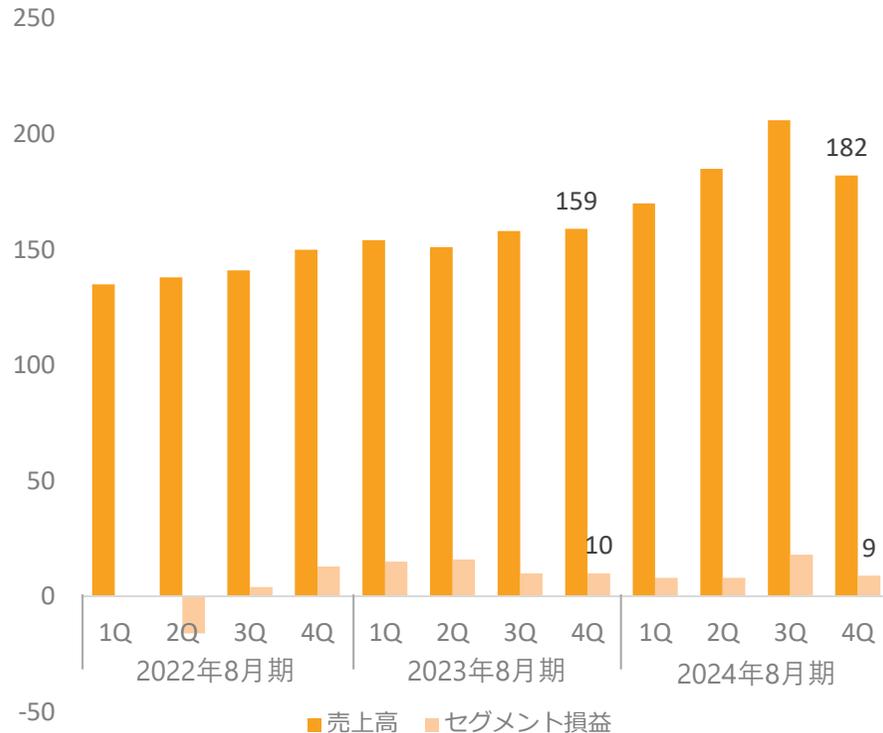
- ・ 「みどりクラウドらくらく出荷」が食流機構によって青果流通を効率化する優良事例として選出
- ・ 効率化のニーズが高く導入に前向きな複数JAにおいて導入トライアルを実施中

機械設計エンジニアリングセグメント

- 堅調な業績推移により、売上高は増収
- 事業拡大に向けた人件費、採用費の増加により、営業利益は減益

業績推移

(単位：百万円)



通期売上高
745百万円
(前期比+19.5%)

通期セグメント損益
44百万円
(前期比▲15.9%)

セグメント利益率
6.0%
(前期比▲2.5%)

決算概要

- 単価アップや既存案件の継続、新規案件の獲得が堅調に推移したことから、売上高は前期比で増収となった。
- 事業拡大に向けた人員増加により人件費や採用費が増加したことから、営業利益は前期比で減益となった。

会社概要



経営理念

- 一、永続的に発展する企業を目指す
- 一、変化にチャレンジする
- 一、世の為人の為に、貢献する
- 一、社員の幸福を追求する

経営方針

IT技術教育（人材育成）によりビジネスを創造し、社会の発展に貢献する

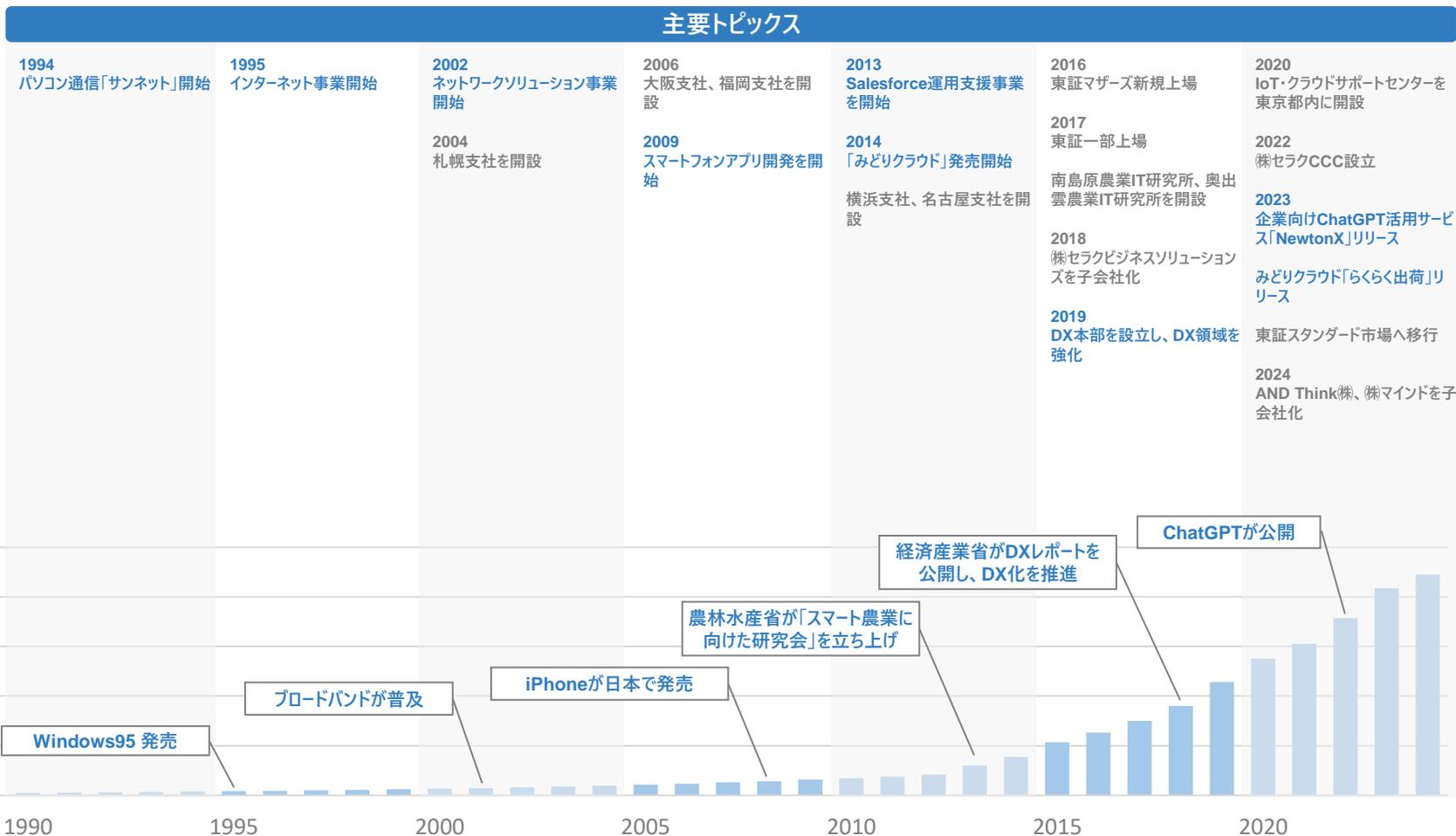
行動方針

新しい商品、サービス、仕組を創造し、実現し続けることに価値を置く集団である

会社名	株式会社セラク（英文名 SERAKU Co.,Ltd.）
設立	1987年12月
代表者	代表取締役 宮崎龍己
資本金	311,269千円（2024年8月31日時点）
従業員数	連結3,387名（2024年8月31日時点）
所在地	東京都新宿区西新宿7-5-25 西新宿プライムスクエア
グループ会社	株式会社セラクCCC（100%子会社） 株式会社セラクビジネスソリューションズ（100%子会社） AND Think株式会社（100%子会社） 株式会社マインド（100%子会社）
市場	東京証券取引所スタンダード市場（証券コード 6199）

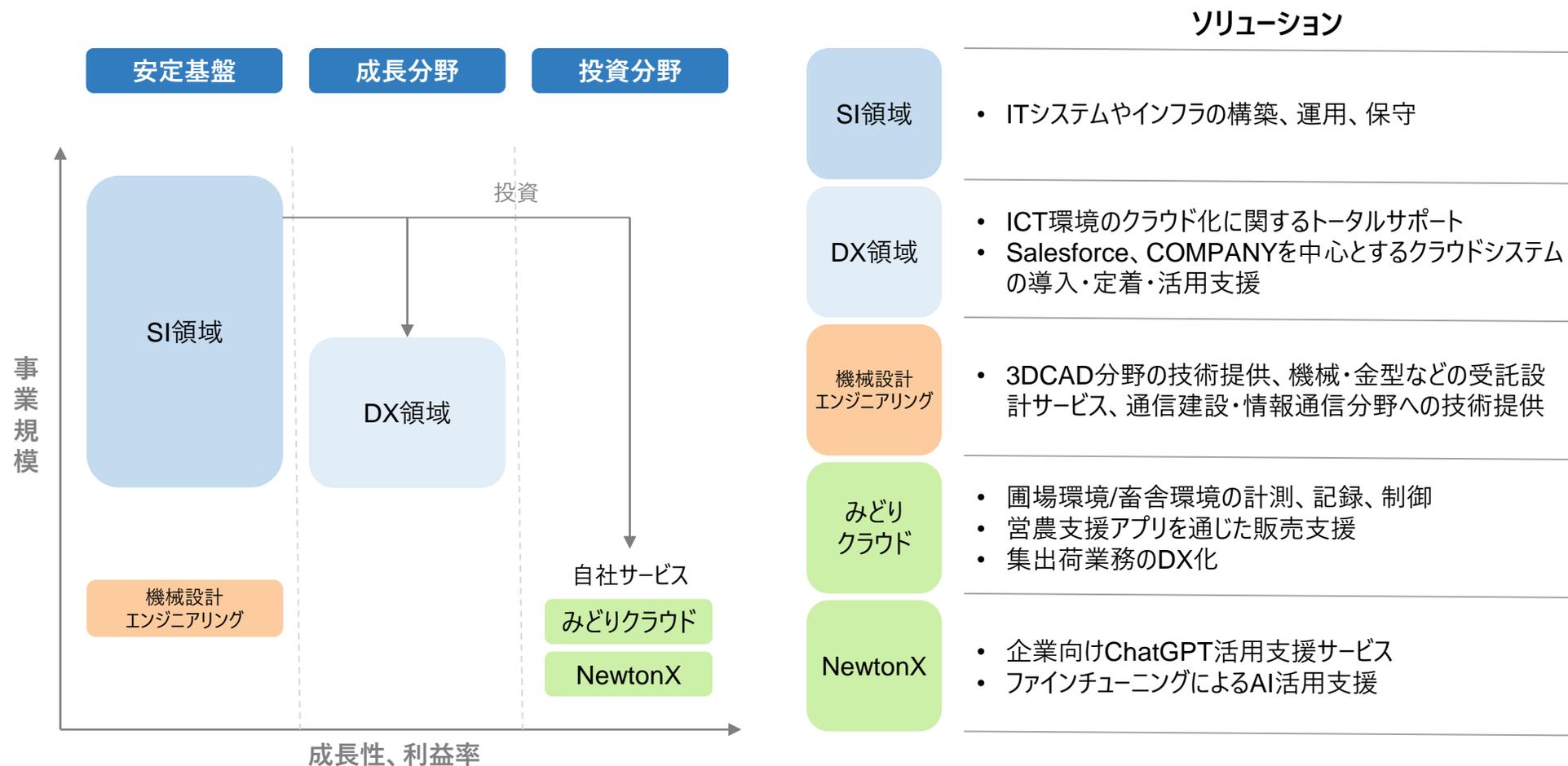
沿革

- IT技術の活用を軸として、社会動向に応じた事業を早期に展開し、独自のポジショニングを確立することで事業規模は順調に拡大



事業内容

- 安定的な収益が見込まれるSI領域を基盤に、DX領域や自社サービスに積極投資
- 成長性の高い分野への投資を継続し、中長期的な事業拡大を目指す



事業内容 SI領域

- ITインフラの構築から運用・保守までワンストップで対応可能
- 外部環境に左右されにくく、当社の収益基盤として着実に成長

ソリューション概要



- ITインフラの設計構築、運用
社会・企業のITインフラ基盤の構築と安定運用をベースに、最新のネットワーク、IoT、セキュリティに対応したIT設計構築を支援



- セキュリティマネージドサービス
ファイアウォールやUTM、不正侵入検知・防御システム、Webサイト改ざん検知、メールセキュリティなどのセキュリティソリューションを提供



- 品質保証サービス
標準化されたテストメソッドを活用し、効率的かつ品質の高いソフトウェアテストサービスを提供



- ITアウトソーシング
ネットワーク構築、IT機器の管理・セキュリティ対応など、企業のIT人材のリソース不足に対して、専門性の高いエンジニアがトータルサポート

事業特性

継続性	ITシステムは継続的な運用が必要となるため、一度受注すると長期的に業績貢献
安定性	リーマンショック、東日本大震災、コロナ禍など、外部環境の急変時にも需要が安定

競争優位性

- 運用・保守案件から高い専門性が求められる案件まで幅広く対応可能
- 大手SIerの大規模案件や一次請け案件を保有
- 実際の案件同等の環境、条件でのITインフラの構築・運用のトレーニングを行える環境を整備

事業内容 DX領域

- 成長性の高いクラウドシステムを中心に運用・定着支援を展開
- Salesforceの定着運用支援では、システム活用を起点とした営業力強化の支援によって差別化

主要取扱サービス

競争優位性

定着運用
支援

顧客管理・営業管理システム



セールスフォースジャパン
FY24売上成長率+18.8%



国内No.1シェア（18.7%）

業務プロセスデジタル化システム



国内シェアNo.1（29.5%）

クラウド &
ソリューション

- IoT/クラウドサポートセンター
- サイバーセキュリティ
- クラウドインフラソリューション

- Salesforce Partner NavigatorプログラムにおいてManaged Service分野でExpert認定を取得
- 10年以上の支援実績（450社以上）を背景に、CRM活用からセールスイネーブルメント領域（営業力強化）まで一気通貫でサポート
- NTTデータ社を中心とした協業体制
- 自社イベント中心に大企業を中心とした年間5,000件以上のリード獲得力



NTT DATA



- Works Human Intelligence社（以下、WHI社）の Solution Partnerとして認定（認定社数は6社）
- WHI社から提供される研修環境を活用した独自のトレーニングプログラムによるハイスキル人材の育成
- 国内最大級のエンジニア数



- NTTデータイントラマート社とカスタマーサクセス文脈で協業
- カスタマーサクセスだけでなく、2024年7月にマインド社の株式取得を行ったことで、開発から定着運用支援まで一気通貫でサポート

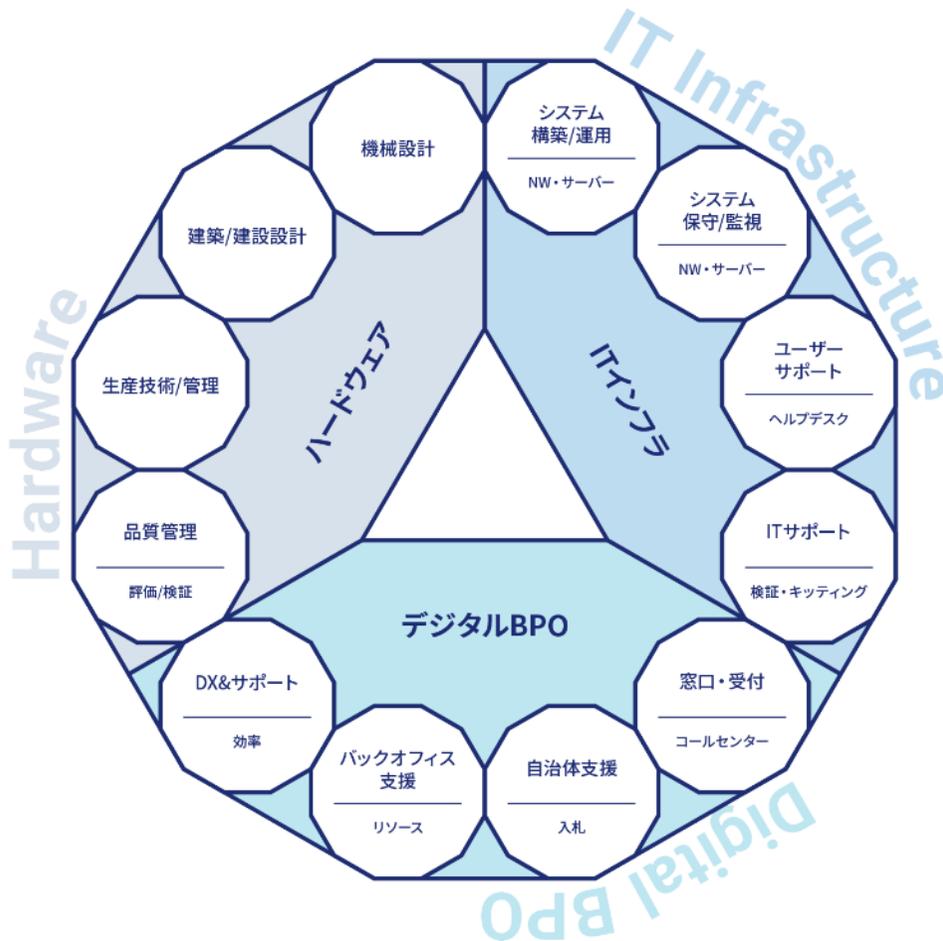
- 専門知識を持ったエンジニアによる24時間365日のサポート体制
- 運用保守に留まらない潜在的なリスクや課題解決に向けた改善提案

*Salesforce Partner Navigator プログラム：特定分野におけるSalesforceパートナーの専門能力を知識・経験・品質から総合評価し、認定するプログラム

*Managed Service分野：システムの活用戦略立案から実運用までをトータルでサポートする運用・定着サービス領域

事業内容 機械設計エンジニアリング

- 当該セグメントは100%子会社の(株)セラクビジネスソリューションズが対象
- ハードウェア領域の技術力を強みとして、事業領域および事業展開エリアを拡大



競争優位性

- ハードウェア領域における高い専門性
- 上流案件から下流案件まで対応できる事業領域の広さ

競争優位性の源泉

技術力

- 最新デジタル技術やツールに関する教育プログラム
- ITインフラ実機・DXツール・2D/3DCADを使用できる環境の整備
- 技術教育担当によるメンタリング・コーチング
- 個人の知識や経験を組織に還元する体制

人間力

- 開放的で協力的な職場環境の整備
- 定期的なフィードバックとコミュニケーション
- 各社員に合わせた教育やトレーニング
- チームビルディング活動による良好な関係構築

事業内容 みどりクラウド

- ITを用いて農業・畜産のDX化を支援するサービス
- 集出荷業務のDX化を実現する「らくらく出荷」に注力しており、複数JAで導入準備を進行中

サービス

らくらく出荷



概要

- 2023年リリースした集出荷における計数・伝票作成と記入作業をラベル（QRコード）の貼付と読取によってデジタル化し、省力化するシステム
- 個体識別番号を付与することでロット単位でのトレーサビリティを実現
- ラベル一枚あたり課金：～40円
- IoTデバイスによって作物の生育環境や状況を自動で計測・記録し、圃場の見える化を実現
- 他社製品との連携による自動制御や、アプリを使った遠隔操作を実現
- 年間作付計画から日々の農作業までの記録・管理を支援
- IoTデバイスによって畜舎の環境を計測、記録し、畜舎環境や設備の以上を検知
- 他社製品との連携による自動制御や、アプリを使った遠隔操作を実現

競争優位性

- QRコード活用によるミスの削減、省力化
- 現場に合わせた運用を実現する高いカスタマイズ性

導入事例

導入先

JAひろしま

導入前の課題

手作業の伝票作成等による負担が大きく、注力すべき栽培指導に充てる時間が圧迫されていた

導入効果*

作業ミス発生リスク：70%低減
生産者の出荷負担：24%低減
JAでの集出荷負担：85%低減



同様の課題を抱えるJAも多く、JAひろしまの成功事例をもとに複数JAで導入準備を進行中

* 記載の導入効果はJAひろしままでの実績であり、業務フローによって効果は異なる

事業内容 NewtonX

- 2023年にリリースしたChatGPTを安心安全に利用するための法人向けサービス
- DX領域のクラウドシステム定着支援のノウハウを活用したカスタマーサクセスが強み

NewtonX

- 安心安全にChatGPTを利用するための法人向けサービス
- 月額10万円から利用可能

競争優位性

カスタマーサクセス	クラウドシステムのカスタマーサクセス支援のノウハウを活用した伴走支援・コーチング
サービス	情報漏洩防止や再学習防止などの高いセキュリティ性

顧客ニーズ

セキュリティ・
コンプライアンス

搭載機能

- 個人情報、禁止ワード検知
入力時に個人情報や予め設定された入力禁止ワードを自動検知
- 認証ルール設定
シングルサインオンによるログインや、IPアドレス制限、多要素認証等の設定が可能

回答精度

- 誤回答抑制機能
独自の調整により古い情報や事実ではない情報の出力を抑制
- データ取り込み
個人チャットに手元にあるドキュメントをアップロードすることで、その情報に基づいた回答の生成が可能

生産性

- ナレッジコネク
NewtonX上に専用のナレッジベースを用意することで、その情報に基づいた回答の生成が可能
- その他
チャット共有機能や質問文テンプレート機能を搭載

IT人材育成モデル

- 豊富な案件と充実した初期教育によって、入社時のスキルを問わず活躍できる体制を構築
- 継続教育によって高単価の開発案件にも対応できるハイスkill人材の育成にも注力



競争優位性

案件

- IT業界未経験者でも活躍できる運用・保守案件を多数保有
- 大規模案件や高度なスキルが求められる案件も、クライアントとの良好な関係構築や多様な顧客ニーズに対応できるエンジニア育成を通じて受注

教育力

- 初期教育として、未経験者には1～2か月の研修を実施し、案件にアサイン可能な水準の技術力やビジネススキルを養成
- 継続教育として、最先端の案件を通じて得られた知見を教育プログラム化し、実践的なノウハウを社内で共有する「情熱大学」や、開発案件を担えるプロジェクトマネージャー育成を目的とした研修を実施

採用力

- 例年100名以上の新卒採用を行うことができる組織体制
- 人材紹介会社との関係構築による豊富な求職者紹介
- 充実した初期教育を背景に、業界未経験でもキャリアチェンジを実現できることを理由とした高い集客力

セラクとESG・SDGsの関わり

- ESG活動を推進することで、セラクグループとして長期の成長基盤を構築
- 社会的価値創造企業として、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを強化

IT社会における システムの安全な運用



- ・ 持続可能かつ強固なITセキュリティ構築の実現
- ・ 顧客に合わせたIT環境・サービスの提供
- ・ ITによって社会活動の維持を支援

人財育成の推進



- ・ 高度な専門知識をもつ人材の育成
- ・ 継続的なITエンジニア教育の実現
- ・ 若年層の雇用確保と多様な人財の活用

社会への新たな価値創造



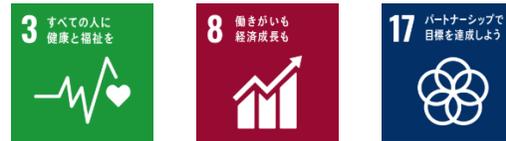
- ・ IT技術で産業の価値を高める
- ・ 人材採用及びIT技術による地方創生
- ・ ITによる高生産性と低労働負荷の実現

農業とITの活用



- ・ 農業のスマート化による生産性の向上
- ・ IT技術による第一次産業の活性化
- ・ 豊かで安定的な食料の生産

心身共に健康な社会の実現



- ・ デジタルヘルスケアサービスの提供
- ・ ITによる社会課題の解決
- ・ 学術機関との連携

コーポレートガバナンスの 高度化



- ・ コンプライアンスの遵守徹底
- ・ コーポレートガバナンスの強化
- ・ 情報開示の充実

将来見通しに関する注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。

これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

2025年8月期の予想値につきましては、新たに算出した予想値または決算において差異が生じ、当該差異が開示基準に該当する場合は、速やかに開示をいたします。